

# 本校で新型コロナウイルス感染者が判明して



高知教文部長 古畑 直人

12月5日(土)、私の勤務する学校で教職員の新型コロナウイルス感染者が判明した。公立高校の教職員の感染では3例目だ。先の2例の高校では、職場での濃厚感染者はいなかったが、本校では教職員の中に数名出てしまい、PCR検査の結果(すべて陰性)を待つて、1日臨時休校となった。

現在(12月11日時点)、高知県は人口当たりの感染者数の割合が全国で6番目に高く、東京や大阪といった都市部の状況と同じステージIIIになった。今後さらに感染がすすめば、さらに他校で感染者が生じる可能性は高い。そこで、本校でのコロナ感染によって生じた課題をいくつか報告する。

**【いつ生徒・保護者に伝えるか】**コロナの感染状況は、毎日午後4時頃に記者会見で発表され、感染者の所属と感染経路などが明らかにされる。我々としては、報道される前

に事前に保護者・生徒に事実を知らせておきたい。理由は、報道を通じて初めて知ることになれば「学校はなぜ黙っていたのか」「今後どうするつもりなのか」といった疑念が生じることだ。12月6日(日)、緊急の臨時職員会を開き、午前中からホーム主任がすべての生徒・保護者に電話連絡する予定だった。ところが困ったことに、県教委から生徒・保護者への事前連絡に対しては「ばた方の記者会見の直前にしてほしい」というのだ。理由は保護者から保健所や県教委に問い合わせが殺到してしまっていることだった。しかし、それでは間に合わない。本校の電話回線は2つしかないため、短時間で全家庭に連絡するのは絶対に無理。「とにかく早く連絡させてほしい」と校長から県教委に掛け合っている。その結果、なかなかに許可が得られず、ゴーストが出たのが午後3時半頃。事前連絡が記者会見の後になってしまった家庭もあった。県教委の対応には納得できなかったが、いざいざに納得できなかった。その結果、学校から保護者等へ一斉に緊急連絡を送れるシステムが絶対に必要だと痛感した。

**【消毒の種類と作業の負担】**感染が判明した翌日、全教職員で消毒作業に取り掛かった。使用したのは次亜塩素酸ナトリウム水溶液(ハイターに含まれる成分)。これを雑巾に染みこませて机や椅子を拭き、10分後に改めて水拭きする。直接手に触れてはいけないので手袋をつけて作業しなければならず、とにかく手間がかかって半日かけても終わらなかった。学校再開後も毎日消毒作業は続けなければならぬが、あまりにも時間がかかりすぎる。コロナ第一波の3〜5月頃、消毒用アルコールが品薄となり、次亜塩素酸ナトリウムを使った消毒が中心となった。そのため、学校に現在あるアルコールが中心で、水拭きのいらないアルコールの方が手に触れても問題ないので断然楽である。

3分の2の生徒が休んでしまった。授業が成り立たない日もあった。休んだ生徒の急引き扱いの確認の電話や課題の準備・送付などに追われ、ホーム担任は忙殺される日々だ。学校行事についても準備が遅れ延期を余儀なくされたり、重を避けるために会場の変更を迫られるなど、今も学校運営に大きな影響が出ている。

現在の文科委員、安倍前首相の一言休校要請の批判を教訓として一律の臨時休校の措置を執らない。そのことには賛成だが、現場で感染者が出たときの教職員の負担は非常に大きいことを考えると、せめても業務の縮減等は柔軟に対応できるようにしてほしい。外部からの支援が必要だと感じている。

**【同校のカラーチランを思いだす】** 橋元陽一 核兵器禁止条約が発効するのを機に、高知で「ビキニデー」(高知)を開催しようとの声があがりました。呼びかけ団体は太平洋核被災支援センター、ビキニ被災訴訟を支援する会、高知県原水爆対策協議会が事務局となり、党派や原水禁運動の壁を超えて参加協力を呼びかけて準備が進められています。

山下正寿さんが40年近く高校生や顧問団とともに地道な調査活動を続けてきたビキニ事件の真相とマグロ漁船員の被ばくの事態を高知から全国に発信する場になるかと確信します。日弁連も支援を政府に要請しています。

3月5日から14日まで、写真展、最新の証言を記録した映画上映、宿泊と釜戸のフィードバック、全体集会と多彩な取り組みを企画しています。開催目的は、1954年ビキニ環礁でのアメリカの水爆実験によって第五福竜丸だけでなく、高知のマグロ漁船が延270隻(全国延1000隻)の乗組員が被ばくしたこと。そして60余年間、この被ばく事実が日米両政府の政治決着によって隠ぺいされたままで元マグロ漁船員と遺族に対して、いまだに何も償いされていないことを伝える。高知からビキニ二事件の真相を調査し、ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ・世界のヒバクシャ救済の道を世界に訴える機会にしたいと考えています。

また「A」企画として、1月22日には核兵器禁止条約発効を祝う集いなどを企画しています。

# 46年・か



岡本 肇

高知大学入学を機に高知に住んで46年、昭和50年、20歳で入学の一浪、小四の時、一学期、心臓の手術のため休学。そのため一学年下のクラスに編入。

大学入学試験がもたらした初来高、二日間の試験が午前中に終わり、帰ろう。しかし、校内の保健センターで受診して、とこのこと、松山の伯父の家に、泊まらせてくれるよ。急ぎよ電話、大学は見事合格。

大学の南演習に入学4月8日、その日より夜遅くまで寮歌の練習。もう驚くやら、10日入学式。その2日後、国立高知病院に緊急入院。潰瘍が再発したため。寮の先輩に病院まで連れていっていただく。ありがたや。大学と寮の往復で、西も東もわからないのもちろん、退寮する。

一ヶ月遅れたが、高知大学文理学部理学科生物学専攻を4年で無事卒業。卒論は、剣山シコクシラベ樹幹および材床の群類、針葉樹シコクシラベの幹と地面に生えているコケを採集して種を同定(調べた)。

翌年研究室、免疫抑制剤による寄生虫の抑制効果について、カンテツ(人にも寄生)という寄生虫をラットにつけ、その後、免疫抑制剤を注射し、寄生虫が肝臓についているラットを解剖して調べた。コケにしても、寄生虫にしても人の目につかぬ、嫌われる生物の研究をしていたなあ。

翌年聴講生、中学理科の免許を取るため大学に残る。この年、若草養護学校寄宿舎管理業務(舎の泊まり)をアルバイトとして行う。昼間大学で実験、夜は舎泊りの日もあった。これが、この仕事に就きつかけとなる。6年間大学に在籍し、暗れて、若草養護学校小学期に講師として採用。一学期時間講師、2学期より、期限付講師、副業で3学期より、2学期より舎の泊りはやめるが、泊る人がいない時、2、3度泊る。つまり、子どもに一日中関わる

ことで、見えてくることもあった。翌年、見事採用、昭和57年高知県立高知若草養護学校東高知病院に赴任。ここで8年をかわきりに、若草本校7年、山田10年、日高3年、若草本校5年、60歳で定年退職。若草本校に始まり、若草に終わる。これも縁。

以後、講師として、日高2年、山田3年。うち2度、一年間の期限付講師。教員生活39年、長かった。

平成31年は、7ヶ月と短い、はばたき作業所にアルバイトとして勤める。教育と福祉を体験することができ、得ることも多かった。

今年こそフリーに、と思いきやコロナで外出規制、逢いたい人にも逢えず、好きなコンサートも中止、旅にも出れず、コロナめ!!

子どもに気に入られること、遊び相手になることも。ニコッ相手の子どもニコッ! ニコニコでいきましょう。

12月24日、クリスマススイブをもって、私、岡本肇は、たくさんの思い出を残し、高知を離れ郷里山口に帰ります。時々来ます。

高退協のみなさまにおかれましてはご自愛ください。

太平洋戦争後も牛馬にすぎない。遊び相手になること、思い上がり、潜んでいたのかもしれない。

太平洋戦争後も牛馬にすぎない。遊び相手になること、思い上がり、潜んでいたのかもしれない。

引かせて水田を耕した。尻を天に向けて早乙女が田植えをし、プーと鳴った放屁は空へ空へ飛んでいく。稲作は猛暑でも毎日巡回し刈り減をする。一株一株鎌で刈り取る。収穫を神に感謝する秋祭り。現代、手作業は少なく大型機械で大量生産する。機械購入に数百万から一千万かかる。消費者は「仁井田米」ではなく「似た米」である。偽装表示で信用が失墜すれば、売り上げも落ち生産者にとっては減収となる。農業はテレワークではできず、よそのの移転も極めて困難である。

# たますぎな



三谷 隆彦

※12月9日付高知新聞 三谷のひらばに掲載された「仁井田米」の投稿は全文掲載できないため、本人の希望により全文を同退協ニュースに掲載します。

編者 田中

芳香豊かな「仁井田米」にJA高知県は古米、他産地米を混ぜて販売していたと報道された。少し混入しても消費者には分からないのが甘えが

今回の混入加担者に対する処分は免職にすべきである。免職になった者は米作りをする。高齢化、過疎化で圃場を見つけないことはできず、よそのの移転も極めて困難である。